
S.W2.0 魔科学冒険記

疾風のへたれ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

S・W2・0 魔科学冒険記

【Nコード】

N0690Z

【作者名】

疾風のへたれ

【あらすじ】

「フェイダン地方」年輪国家アイヤール”での冒険者たち。

悪人ボーダーぎりぎり（アウト？）な珍道中。

使用したデータは、ルールブック1～3、「賢者の砂時計（<http://www.geocities.jp/cmpdt317/trpg/>）」にあつた自作の経歴表、などを使わせてもらいました。

データ（前書き）

前書きに書いた通り、使ったデータは、
ルールブック1〜3、賢者の砂時計にあつた自作の経歴表を使わ
せて貰ったツス。

データ

・クロウ

種族 ナイトメア（リルドラケン）

種族特徴 異貌 弱点「風属性」

性別 男 年齢 20

技能 ファイターLv1 プリースト（ル＝ロウド）Lv2

能力値 （）内は能力値ボーナス

器用 15（+2） 敏捷 18（+3） 筋力 20（+3）

生命 20（+3） 知力 16（+2） 精神 16（+2）

HP 26 MP 22

武器 ヘビーアックス

鎧 スプリントアーマー

盾 無

経歴表

何らかの仕事を手伝ったことがある

空腹のあまりに失神したことがある

根拠のない自信を有している

設定

放浪ナイトメア。忌子として育てられなかったので、基本的に能天気。

・セシル

種族 ルーンフォーク

種族特徴 暗視 HP変換

性別 女 年齢 9

技能 フェンサーLv2 マギティクLv1 スカウトLv1

能力値

器用 27（+4） 敏捷 22（+3） 筋力 22（+3）

生命 19 (+3) 知力 26 (+4) 精神 20 (+3)
HP 25 MP 23
武器 ショーテル(データ的にはサーベル)×2
鎧 ソフトレザー
盾 無

経歴表

身の回りのことが苦手

特定の人物に負い目がある

高レベルの家族がいる(いた)

設定

どこかの義賊団に所属していた。メイドなのに自分の身の回りのことが苦手なのでほっておくと大変なことになる。

・エル

種族 エルフ

種族特徴 暗視 剣の加護/優しき水

性別 女 年齢 20

技能 ソーサラーLv1 コンジャラーLv1 セージLv1 フ

エンサールLv1

能力値

器用 17 (+2) 敏捷 22 (+3) 筋力 4 (+0)

生命 10 (+2) 知力 23 (+3) 精神 22 (+3)

HP 13 MP 28

武器 メイジスタッフ

鎧 クロースアーマー

盾 バックラー

経歴表

高レベルの家族がいる(いた)

他人の感情に鈍感

誰かに大怪我をさせたことがある

設定

マッドサイエンティスト。実験に失敗した際にオッドアイになった。

・ユキ

種族 ルーンフォーク

種族特徴 暗視 HP変換

性別 男 年齢 5

技能 フェンサーLv2 シューターLv1 スカウトLv1
ンジャーLv1

能力値

器用 23(+3) 敏捷 18(+3) 筋力 19(+3)

生命 14(+2) 知力 13(+2) 精神 10(+1)

HP 20 MP 10

武器 ショートソード ダガー×3

鎧 ソフトレザー

盾 無

経歴表

知ってるはずのない知識をもっている

因縁のある集団がある

二面性がある

設定

傭兵崩れの野良ルーンフォーク。ジェネレータに不具合があったらしくマスターを求めない。

・シア・トラレス

種族 人間

種族特徴 剣の加護/運命変転

性別 女 年齢 17

技能 フェアリーティマーLv2 セージLv1

能力値

器用	9 (+1)	敏捷	13 (+2)	筋力	11 (+1)
生命	17 (+2)	知力	20 (+3)	精神	17 (+2)
HP	23	MP	23		
武器	無し				
鎧	ソフトレザ				
盾	バックラー				
経歴表					
真偽入り混じった評判を蒙っている					
人嫌い					
襲撃されたことがある					
設定					

前述の四人が初仕事で訪れた村の村長の娘。一件が終わり引き上げる一行に同行する。

セッション1-1「迷子を探しに行く方法」(前書き)

データだけ投稿はさびしいツスので、もう一話投稿ツス。

セッション１「迷子を探しに行く方法」

ラストティア大陸、フェイダン地方の”年輪国家”アイヤール。

蛮族との争いが絶えないこの国の外周領のひとつに、冒険者の店『ノートン』はあった。

『ノートン』は冒険者の店としては中堅ところで、悪い店ではなかった。

そんな店にまた新米冒険者たちが集まってきた。

店のテーブルで赤髪、紅目の”ルーンフォーク”、ユキが独り佇んでいた。

”ルーンフォーク”といっても硬質素材である首と手首を隠しているので一見人間にしか見えないのだが。

そして、二階から”ボン”と何か爆発したような音がした。

少ししてから、銀髪で紅と蒼のオッドアイでモノクルを着けた”エルフ”、エルが二階から降りてきた。

”エルフ”でも漂白剤を掛けたように肌は白く、胸以外はかなり細いのだが。

エル「モルモット実験動物がまた暴れて失敗しちゃった。」
ユキ「またか。」

カウンターの奥から店主の”ドワーフ”セルゲイが出てきて、セルゲイ「営業妨害だからいい加減に……。」

言い終わる前に、音を立ててドアが開き

???「おっちゃん、子供拾った。」

アルラウネを肩車した”ナイトメア”が金髪の子供を脇に抱えて入ってきた。

セルゲイ「クロウお前はまた拾い物か。アルラウネにコボルト、果てはルーンフォークか。いい加減こつちで養うのも大変なんだ。」

クロウと呼ばれた黒髪、紅目の長身でマフラーとポンチョを着けた”ナイトメア”は咎められたことを悪びれもせず
クロウ「おっちゃんカルシウム足りてる？」

セルゲイ「誰のせいだと思ってる。」

???「落ち着きやがれであります。」

クロウが拾ってきた、金髪ポニーテールの、蒼目ロリメイドな”ルーンフォーク”、セルルが飯を食べながらしゃべる。

皆が話していると青年が息も絶え絶えに駆け込んできた

「助けてくれ、蛮族が。」

セルゲイ「わかった。しかし、今空いているのここに居る奴らだけだ。」

ユキ「選択の余地はない。」

クロウ「別に問題ないよ。」

エル「蛮族ね…丁度モルモット切らしてたのよね。」

セルル「もうちょつと飯を食いたいであります。」

セルゲイ「…まあいい。行ってこい。保存食も付けとくから。」

カウンターに置かれた革袋と皿にかじりつくセルルの襟首をひつつかむと4人はノートンを飛び出した。

その村はノートンから歩いて半日かかる場所にあり、一行が着く頃には日が少し傾いていた。

「あそこです。」

と青年が指差す先には人々の悲鳴と凡庸蛮族語と思わしき罵声が聞

こえてきた。

「遅かった…。」

ユキ「よく見る。まだ柵は越えられていない。このまま急襲する。」
セシル「やつふえやるえあひはふ（やってやるであります）。」

エル「じゃあスパーク。」

「えっ。」

完全に不意を突かれたボガードとゴブリン二体は【スパーク】を
まともに浴びた。

あまり効いていないが。

ボガードたちは泡を喰って振り返り、こちらに対して戦闘態勢を
とる…前に投げナイフ洗礼を浴びた。

ゴブリンに当たり、蚊が刺す程度のダメージをあたえた。

セシルが【ターゲットサイト】を使いショーター二本でゴブリン
に切りかかる。

ゴブリン一体をだいぶ弱らせた。

クロウがヘビークラスで弱ったゴブリンに切りかかる。

ゴブリンを一体倒した。

ゴブリンはセシルに襲いかかった。

セシルはひらりと避ける。

続いてボガードもセシルに襲いかかった。

二度目も回避に成功。

エルは【エネルギー・ボルト】を詠唱する。

【エネルギー・ボルト】が残ったゴブリンを貫く。

ユキが接近してショートソードとダガーの二刀流で仕掛ける。

ダガーが敵を捉え、切り裂く。

そのあと、セシルがショーターでゴブリンを切り捨てた。

クロウは【フィールド・プロテクション】を前衛の三人にかけた。
ボガードがユキに襲いかかる。

避け損ねたユキは、ボガードの攻撃をまともに浴びてしまう。

エルは再度【エネルギー・ボルト】を詠唱する。

抵抗されさほど効かなかったようだ。

セシルが【ターゲットサイト】を使いショーテル二本で切りかかる。

ボガードに疲れが見え始める。

ユキも再び二刀流で攻撃する。

先ほどのダメージの影響で動きにキレがなく、避けられてしまった。

クロウはユキに【キュア・ウーンズ】をかける。

どうにか持ち直せる程に回復する。

ボガードはクロウに攻撃を仕掛けた。

ボガード「回復させるかー」

出鱈目に突き出された棍棒を難なく避ける。

ユキが先の仕返しとばかりに切りかかる。

単調になった攻撃をボガードは避けた。

セシル「落ち着きやがれ同胞であります。」

セシルは【ターゲットサイト】を使いボガードに切りかかる。

ショーテルがボガードの急所を捉え、そのまま倒した。

ボガード集団を倒した一行は村長の家へ。

「危ないところを助けていただきありがとうございます。村長のトラレスです。」

ユキ「仕事です。」

「ですが、まだ複数の蛮族がいるはずですので、追加で蛮族のせん滅を依頼できますか？」

全員、うなずき、報酬の交渉に入る。

話し合いが終わると部屋の入り口から頭が覗いていた。

最初に気付いたアルラウネがトテトテと近づいて行った。

「????「あ……」

クロウ「どうしたの? あ、こんにちは」。

近づいて来たアルラウネに手を伸ばそうとした黒髪、黒目の少女
シア・トラレスは、遅れて気付いたクロウを見て後ずさった。

クロウ「あれ、どうしたの?」

ユキ「クロウ。」

更に遅れて気付いたユキが立ち上がり

ユキ「気さくなのはいいがお前がナイトメアであることを快く思わ
ない者も居る事を忘れるな。」

クロウ「えー何で?」

二人が話している間テーブルではエルが何やら怪しげな薬品を取り
出し村長に迫っていた

エル「お宅の特産品がこちらのギャンブルポーション S の材料に
うってつけなんです。なので……」

「はあ……」

エル「これを村の発……痛っ」

すこーんと子気味良い音を立てたナイフ（鞘入）が床に落ちる。

セシル「やりやがりますね同胞。」

エル「痛いじゃないの。」

ユキ「うるさい。余計な事で村長の手を煩わせるな。」

エル「わたしの実験のために（わたしは村の発展のために）……」

クロウ「おーい。」

ユキ「どうした?」

クロウ「この子、モロに怖がらせちゃってるよ。」

アルラウネの後ろで震えているシアの姿があった。

ユキ「……」

「……まあ今日は夜も遅いですし、部屋を用意しましたので疲れを癒
やしてください。」

その後村に滞在しながら蛮族を探すも特に何事もなく三日が過ぎた。その間ユキはシアから避けられまくった。

そして四日目

昼過ぎ、装備の手入れをしているユキの所に村長がセシルと部屋の片付けをしていたクロウと共に出てきた。

「娘が帰って来ないんです！」

ユキ「どうした？」

クロウ「アルラウネと森に救命草を採りに行っただけで帰って来ないんだって。」

ユキ「はあ？何故行かせた？俺達がここに留まっている理由を忘れたか？」

クロウ「まあ遠くないし何回か見回りしても居なかったから大丈夫かなって。」

「早く探してはくれませんか？！」

ユキ「わかってる。二人を呼んでこい。」

セシル「既に居てますよ。」

ユキ「なら早い。行くぞ。」

冒険者たちは森に向かっていった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0690z/>

S.W2.0 魔科学冒険記

2011年12月2日18時49分発行